

これが私の指導法 ～知的財産の継承～



東雲中学校
教諭 安部 晃幸

国語科では古典に親しむ態度の育成が一層重視されています。しかし、古典の学習に苦手意識をもつ生徒は多いのが現状です。

「よく売れる本の魅力って何？」
ここ数年、古典の学習に入るとき、生徒たちにご質問します。生徒たちは好きな作品の『おもしろさ』について語り始めます。

「じゃあ、おもしろさって何？」
最初はうまく説明できない生徒たち。でも次第に、「こっけいだ」だけでなく、「意外性がある」「スリルや驚きがある」「分かりやすい」「役に立つ」「共感できる」といったものも『おもしろさ』ではないかという話合いになり、その後、古典の授業に入ります。

作品のおもしろさの定義を共通理解することは、これから出会う

古典作品を表層的な読み方で終わらせないためにも重要であると考えます。

生徒の関心・意欲・態度は指導者が創り上げていきます。時に柔軟な発想で、今まで培ってきた自分の授業スタイルを脇において、新しいスタイルの確立にチャレンジすることも大切なのではないのでしょうか。



第四小学校 教諭 松山 裕子 学び合い高め合う 「チーム四小」



本校は、県北で最も規模の大きい学校として、学年部を軸としてチームを組み、一人で悩まず輪をもって仕事を進めている。若い先生の新鮮なアイデアに、ベテランがさらに進化できる学校でもある。職員室は、実に明るい。

今年度も「互いの実践のへ共有と継承」を研修のテーマに据え、チームとして、一層の力量向上へと向かっている。

①楽しい・分かる授業づくり

まず、「四小学びのアンケート」である。児童の実態を把握し、効果的指導へと生かしている。年二回の実施は、児童の変容の検証にもなる。また、「一見通し、学び合い、振り返り」の過程を意識したテンポの良い授業の積み重ねに努めている。特に、学び合いの場面では、「助ける、共感する」などの生徒指導の機能を生かし、学年に応じた話型を活用する「つながる学び合い」に挑戦している。

全員による「授業を見合う会」は、有効な検証の場となる。

②重点教科は「道徳科」

道徳を重点教科とし、新しい道徳の在り方を探っている。拡大版別様を作成し、学年の道徳コーナーには、四つの視点を色別に子どもに分かる言葉で掲げている。教材の共有も行っている。私たちチーム四小は、確実に歩み続けている。



編集後記

時折吹く南風に、夏の暑さが感じられる今日この頃です。

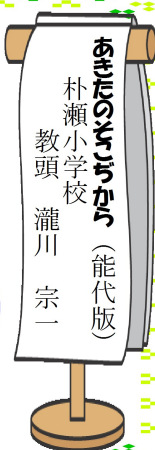
今年度もこの「教育のしろ」は、年四回の発行を予定しています。先生方の教育への思いや指導法、各校の取組や子どもたちの輝きを皆様にお届けいたします。

年度初めのお忙しい時期にもかかわらず、玉稿をお寄せくださった方々に感謝いたします。(大)



「タイムリーな助言を」
担任の佐々木先生が、学習リダーの進める話合い活動をコーディネートし、複式学級の指導をしています。価値ある話合いになるように、柱を明確にし、子どもたちが問題解決ができるように、状況に把握し適宜助言します。自分たちで解決する力が身に付いてきました。

相互に啓発する授業を (話合い、学び合い)



あけびのようじょうか (能代版)
朴瀬小学校
教頭 瀧川 宗一